



2022年4月27日

各 位

会 社 名 三菱製紙株式会社
代表者名 代表取締役副社長 眞田 茂春
(コード番号 3864 東証プライム)
問合せ先
経理部長 井能 裕之 (TEL 03-5600-1407)
総務・広報室長 長谷川 保則 (TEL 03-5600-1487)

営業外収益（為替差益）、特別損失の計上並びに 通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（無配）に関するお知らせ

下記の通り営業外収益（為替差益）、特別損失を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。また、それらの影響を加味した最近の業績動向等を踏まえ、2021年11月10日に公表した2022年3月期の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正しましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）について

2022年3月期連結会計期間（2021年4月1日～2022年3月31日）において、為替差益1,038百万円を営業外収益に計上いたします。

上記の金額は、主に当社グループが保有する外貨建資産・負債の期末（2022年3月末日）時点の為替相場による評価替えにより発生したものです。

2. 特別損失について

（減損損失）

当社つくば R&D センター及び社宅・社員寮の譲渡決議に伴い、当該固定資産についての減損処理を行い、627百万円の減損損失を計上いたします。

詳細につきましては、本日発表の「固定資産の譲渡並びに特別損失（減損損失）計上のお知らせ」をご参照ください。

（個別決算）

連結子会社の三菱ペーパーホールディング（ヨーロッパ） GmbH の出資金につきまして、実質価額が著しく低下したため、減損処理を行い、関係会社出資金評価損 719 百万円を特別損失として計上いたします。

また、当該子会社が債務超過となることから、当該債務超過相当額について関係会社貸倒引当金繰入額 1,572 百万円もあわせて特別損失として計上いたします。

なお、個別決算における関係会社出資金評価損及び貸倒引当金繰入額は、連結決算上相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 業績予想の修正

(1)2022年3月期通期連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 175,000	百万円 1,000	百万円 2,000	百万円 500	円 銭 11.20
今回修正予想（B）	181,000	△300	2,000	1,000	22.40
増減額（B－A）	+6,000	△1,300	0	+500	
増減率（％）	+3.4	－	－	+100.0	
（ご参考）前期実績 （2021年3月期）	162,325	△1,770	△636	△2,532	△56.72

(2)修正の理由

売上高につきましては、ドイツ事業において原燃料費高騰に対応した値上げを行ったことなどから前回公表値より増加する見込みです。

利益面につきましては、1月1日出荷分から予定していた国内印刷・情報用紙の製品価格改定の浸透が遅れ、利益に大きく寄与するのは4月以降となる見込みです。

また、国内紙パルプ事業の石炭や重油、ドイツ事業の天然ガス価格の上昇の影響は大きく、さらに2月以降は地政学的リスクが高まり、原燃料価格は一段と上昇しました。

こうした状況踏まえ、上記の営業外収益や特別損失の影響や税金費用の影響を加味した結果、通期の業績予想値の売上高、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正し、営業利益を下方修正いたします。

4. 配当予想の修正（無配）

(1)2022年3月期期末配当予想の修正の内容

基準日	年間配当金(円)		
	第2四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想		5.00	5.00
今回発表予想		0.00	0.00
当期実績	0.00		
前期実績 (2021年3月期)	0.00	0.00	0.00

(2)修正の理由

当社は、剰余金の配当等の決定に関しましては、株主への利益還元を経営の重要課題と位置づけ、各事業年度の業績と今後の経営諸施策に備えるための内部留保を総合的に勘案しながら、配当を安定的に継続することを基本方針としております。

しかしながら、2022年3月期の連結営業利益は上記の通り大きく落ち込む見込みであることから、誠に遺憾ではございますが、期末配当金の予想を無配へと修正させていただきます。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上